



# 確かな学力の向上をめざして【10月】

## ■ 「とっとり学力・学習状況調査」の活用

中部地域では、今年度、小学校4年生から中学校1年生を対象にして「とっとり学力・学習状況調査」（以下「とっとり学調」）がはじまりました（来年度は中学校2年生も対象となります）。各学校に結果が返却され、9月14日には分析説明会も実施されました。今後、分析・活用するにあたり「とっとり学調」とは、一体どんなものなのか。概要をご紹介します。



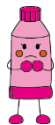
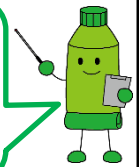
Q1: とっとり学力・学習状況調査ってどういうもの？

A1: 埼玉県で開発された新しい考え方による学力調査です。同じ「学力・学習状況調査」という名称ですが、全国学調とは目的や結果として提供されるものも異なり、全く性格の異なる調査だと言えます。全国学調の鳥取県版ということではありません。



Q2: どのあたりが全国学調と違うのでしょうか？

A2: 毎年の学力調査の結果を見比べることによって、一人一人の児童・生徒の学力の伸びを見ることが出来ます。（学力の伸びは2年目以降の調査から見ることが出来ます。）また、学力と強く関係していると考えられている自制心、やり抜く力といった非認知能力の状況も確認できます。

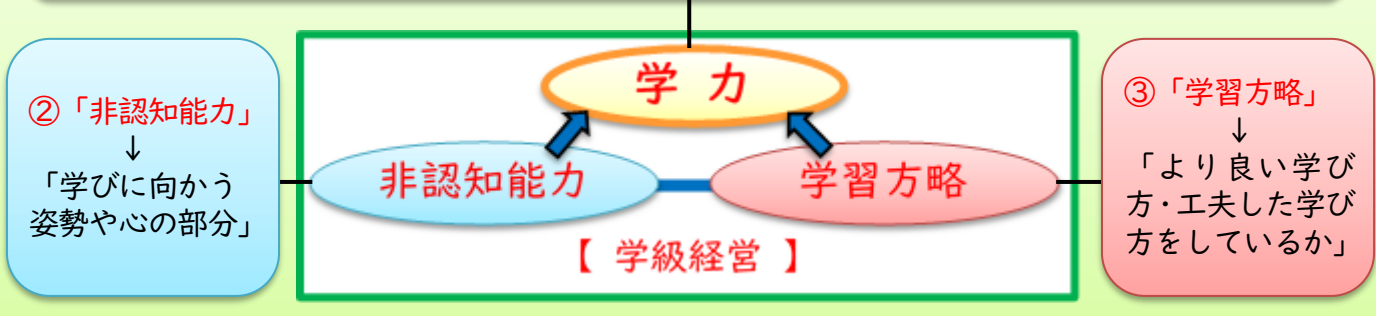


Q3: 一人一人の学力の伸びや非認知能力の状況をどう生かすの？

A3: とっとり学調では、学力調査と質問紙調査によって、大きく以下の3つの要素が測られています。①「学力レベル」 ②「非認知能力」 ③「学習方略」  
これらを視点にして、児童・生徒一人一人の学力の伸びや状況を見取り、学力を伸ばしている効果的な指導法を探っていくことができます。



①「学力レベル」 → 「IRT（項目反応理論）」という理論に基づいて、学力調査の結果を点数ではなく「学力レベル」として表すことで、内容の異なるテスト間であっても「伸び」を把握することができるのです。



とっとり学調で測ることができる3つの視点（学力レベル・非認知能力・学習方略）で学級経営や授業づくりを見直してみましょう。  
※詳しくは、9月14日にオンラインで開催された分析説明会の資料等もご確認ください。  
※とっとり学調の分析や活用に係る校内研修等への指導主事派遣については中部教育局までご連絡ください。